

門信徒の皆様へ 御門主様より年頭のご挨拶



浄土真宗本願寺派 門主 大谷 光淳

年頭の辞

新しい年のはじめにあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年一昨年に引き続き、私たちの生活は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行に対応したものとりました。ここに、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患されている皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、治療・対策にあたられている医師、看護師をはじめとする医療従事者の方々、ライフラインの維持に努めておられる方々に深く敬意と感謝を表します。

この新型コロナウイルス感染症は、私たち一人一人の生活に大きな影響を与えました。それは、同時に社会の問題も浮き彫りにしています。仏教を説かれたお釈迦様は、自分自身の考えにとらわれ、真実をみることでできない私たちが自分の思い通りに行動したら、社会の中に対立や分断を生むことになりません。



L.A. Homba Hongwanji Buddhist Temple 815 E. First Street Los Angeles, CA 90012 Tel: (213)680-9130 Fax: (213)680-2210 E-mail: info@NishiHongwanji-la.org Website: www.NishiHongwanji-la.org

親鸞聖人は、ご和讃に「浄土真宗に帰すれども 真実の心はありがたし 虚仮不実のわが身に 清浄の心もさらになし」とうたわれました。阿彌陀さまのおはたらきによって知らされる私たちの本当の姿は、縁起や無常、無我というこの世界の真実をそのままに受け入れることができずに悩み苦しむ姿です。親鸞聖人は、そのような私たちに阿彌陀さまのおはたらきが届いていると明らかにされました。いまだに新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない世界ですが、阿彌陀さまのおはたらきを聞き、それを依りどころとして日々の生活を過ごしてまいりましょう。

現在の厳しい状況の中でさまざまな試みを重ねながら、今までは違った方法で浄土真宗のみ教えを広く社会へ伝える取り組みもなされていると聞き、たいへん心強く思います。これからもお寺が皆さまの心の支えとなりますよう、お寺の活動にご理解とご協力を頂きますことをお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

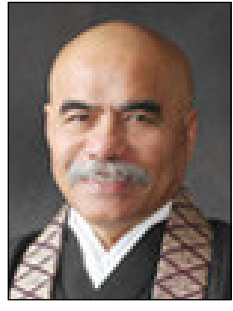
二〇二二年一月一日

浄土真宗本願寺

門主 大谷 光淳

【各ページ案内】 一頁 総合 二頁 「この話ご存じでしたか」 三頁 法話・コラム 四頁 弔意・感謝録、案内他

本派本願寺羅府別院 輪番法話



輪番 ウィリアム ブリオネス

「年頭の御挨拶」

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。 施した後で悔いたり、施して誇りがましく思うのは、最上の施しではない。施して喜び、施した自分と、施しを受けた人と、施した物と、この三つをともに忘れるのが最上の施しである。

羅府別院理事長より



理事長 田端 パメラ

新年あけましておめでとございます。慈光照護のもと、皆様のご健康のこととお慶び申し上げます。

仏教では変化を受け入れなければならぬと常に言われています。「常に一定なものの変化だけだ」という格言はもつと事です。私たちは、この二年間を劇的な変化の中で生きてきました。それは決して、第二次大戦時に起きた強制収容所の出来事やスペイン風邪の大流行などの過去と簡単に比較できるものではありませんが、私たちが経験した変化は非常に大きなものだったと言えるでしょう。

正しい施しは、その報いを願わず、清らかな慈悲の心をもって、他人も自分も、ともにさとりに入るように願うものでなければなりません。

感謝祭の翌日、私はダイニングテーブルでこの原稿を書いていた。その日はとても美しい日でした。ガラス戸越しに見える戸外には穏やかな陽光が降り注いでいます。その時私の心に感謝の気持ちが溢れるのを感じました。

昨年の六月に母が亡くなってから、折に触れ母のことを考えます。そして見返りなど求めることのない母がどれほど多くのことを私にだけなく彼女が関わった全ての人に与える人であったか、そしてそれは特別な日のことだけではなく、母の毎日他の人のために施し、慈しむ日々であったことに気づかされました。そして何かを贈られた時は、涙を浮かべて感謝の気持ちを伝えたのが母という人でした。

冒頭に紹介した一節はお釈迦様の言葉です。二千五百年も前の言葉で(三面へ) この「変化」は別院の活動にまで影響が及び、私たちは従来の型から外れた新たな思考が求められました。これは特筆すべきことです。私たちはもう今まで通りとは違ったやり方で現状に対処しなければいけません。別院の門信徒が丸と丸になって、新たな知恵を絞ってその方法を模索して下さったお陰で、私は今新たな希望に期待を寄せることができます。このパンデミックは私たちが今まで持っていた視点に新たな角度を加えることとなり、結果、より多くの人の希望に応える術を身に着けましたと自負しております。

一方で、私にはある種の寂しさの感情が残っています。パンデミック以降、初めて別院にお参りさせて頂いた時、得も言われぬ喜びとその時の光景や匂い、音などに包まれて一が内から起こってきた。オンラインでも仏事参拝ができるのは確かに有り難いことですが、別院の本堂でお参りができることはやはり格別と言えるでしょう。是非、近いうちにまたお会い致しましょう。

合掌

【一月・二月のご法縁のご案内】

- 修正会 (於 \*ハイブリッド) 一月一日 (土) 午前十時 永代経祥月法要 (於 ハイブリッド) 一月九日 (日) 午後一時 報恩講セミナー (於 ハイブリッド) 御講師 楠活也師 (シアトル別院 輪番) 日本語 一月十五日 (土) 午前十時 報恩講法要 (於 ハイブリッド) 御講師 林 ラジアン師 (恵光寺 開教使) 日英 一月十六日 (日) 午前十時 如月忌 (於 ハイブリッド) 御講師 ワンドラ 睦師 (オレンジ郡仏教会 開教使) 日英 二月六日 (日) 午前十時 涅槃会 (於 ハイブリッド) 二月十三日 (日) 午前十時 永代経祥月法要 (於 ハイブリッド) 二月二十二日 (日) 午後一時 BEC仏教法話会(The Basic Teaching of Jodo Shinshu)(於 オンライン) 二月十五日から毎週火曜日(計四回) 午後六時 BEC仏教法話会[Contemporary Issue and Jodo Shinshu Perspective] (於 オンライン) 水曜日 夕刻 不定期 BEC仏教法話会 安心論を学ぶ(於 ハイブリッド) 一月六日から隔週木曜日(計五回) 午前十時 BEC仏教法話会 教義抄に聞く(於 ハイブリッド) 一月二十九日、二月五、十九日 (土) 午前十時 BEC仏教法話会 Shin Buddhism by D.T. Suzuki (於 西別院) 一月八、二二日、二月十二、二六日(土) 午前十時 日曜礼拝(於 ハイブリッド) 毎週日曜日 午前十時 別院お休み 一月二日 [New Year's Day] \*ハイブリッド... (参拝)受講をZoomか西別院屋内でお選び頂けます。屋内をご希望の方は、ご自身のワクチン接種済証明書を(持参)ください。 本派本願寺羅府別院

【この話ご存知でしたか】増山栄子 翻訳 伊藤千鶴子

『本派本願寺ロスアンゼルス別院 1905-1980』80頁

「日曜学校 父母会」

日曜学校父母会は、ロスアンゼルス別院日曜学校の生徒の保護者と支援者の集まりです。その目的は、日曜学校プログラムや、その他の寺院活動への参加と支援を通じて浄土真宗を奨励することです。

父母会は、私たちのお寺が、第二次世界大戦後再開された時に、日曜学校の資金調達を援助するために組織されました。非常に困難な時代でお金がほとんどなく、日曜学校を含め、多くのお寺の行事や活動は資金不足のために削減されなければなりません。保護者達は心配をされていました。そこで彼らは、日曜学校の重要な仕事を続けることができるように、団結して資金を調達する必要があると考えました。

1947年、しのはら ゆたかと山本義弘 開教使の尽力により定款が採択され、支援を提供する組織を意味する「維持会」という名称で父母会が設立されました。

「日曜学校ピクニック」と「日曜学校お歳暮プログラム」の二つの非常に重要な基金調達のイベントが開かれました。これらのイベントは、日曜学校が財政的に独立した運営を維持することを可能にし、今日まで毎年開催されています。

維持会の初代会長はかみしずいちでした。次会長は鞘野計一郎に引き継がれて、1959年までの十年間奉職されました。ますだみやこは1963年まで会長を務め、しのはらゆたかは、維持会が存続した十五年もの間理事長を務めました。増山栄子は十年間、会の会計を務めました。

この新しく組織されました保護者の援助により、日曜学校の入学者数は増加し始めました。1950年代後半から60年代にかけて、五百人もの学生が登録され、三百人以上が常時参加していました。維持会の保護者は、多くの生徒に交通手段を提供するために二台の大型バスを運行しました。日曜学校は繁栄し、学校の新生が増えるにつれて、維持会もまた発展しました。

維持会は主に一世の保護者で構成されており、会合は完全に日本語で実施されていました。60年代頃になると、より多くの二世が参加するようになり、それとともに他のニーズが出てきました。

1962年には、組織名が日曜学校父母会に変更されました。同会の初代会長にはしばたよしおが選出され、会合は英語で行われるようになりました。

父母会はジュニアJUN、ボーイスカウト、カプスカウト、柔道クラブ、キャンプファイヤーガールズ、ワングジとワングジツのスポーツチームなど、様々な青少年活動への支援を拡大していきました。

会長のしばた氏に加えて、日曜学校父母会には他に、ジェームズみやさき、ヘンリーさかと、ジョンやまだ、はまなかひさおらが指導する立場として会を引率しました。現在の同会会長はポールとみたです。みやもとまさえは十五年以上に渡って会計を務めました。

『別院時報』1963年10月5日

「日曜学校父母会ニュース、さかにわ運動部新会長」

ミッツさかにわは、ジョージおかだの後任として、日曜学校父母会運動部会長に選出されました。きよしこ、みやもとまさえの両婦人は、引き続き会長補佐として執行業務を継続していきます。

さかにわ氏はここ数年は総監督として、運動プログラムに積極的に取り組んでいました。彼はまた、「JUN」の元会長であり、南部地区JUNソフトボールリーグの創設と組織の体制づくりを担当した一人でもあります。

おかだ氏は、自身のビジネスの事業拡大に伴う負担が増えた為、残念ながら会長の職を辞任しました。彼は私たちの運動部を過去四、五年間の困難な成長期の時期にうまく導いてりーあーシップを発揮していただき、彼の喪失は大きいものであります。

さかにわ氏は、運動部の三代目のリーダーに抜擢されました。元日曜学校の教師であるおたみんは、一つのバスケットボールチームを形成するの最低限の人数しか男子がいない状況からすべてを始めた。おた氏は、現在サンノゼの仏教会に移ってから良い仕事を続けています。

『別院時報』1972年5月

「ピクニック」

別院の毎年恒例のピクニックは、1972年6月4日にエリシアンパークの九番区画での開催を予定しています。今年のピクニックは別院が主催となり、ピクニックの計画は川口正司会長と、その補佐で日曜学校のピクニックのます氏が中心になって進められます。今年のピクニックは規模が拡大されて、支部教会を含んだ委員会が結成されて、全ての支部メンバーが参加することになりました。ピクニックのプログラムは次のとおりです。

- モーニングサービス 午前十一時
- ランチ 正午～午後一時
- 子供の徒競走 午後一時～三時
- (お昼休み)

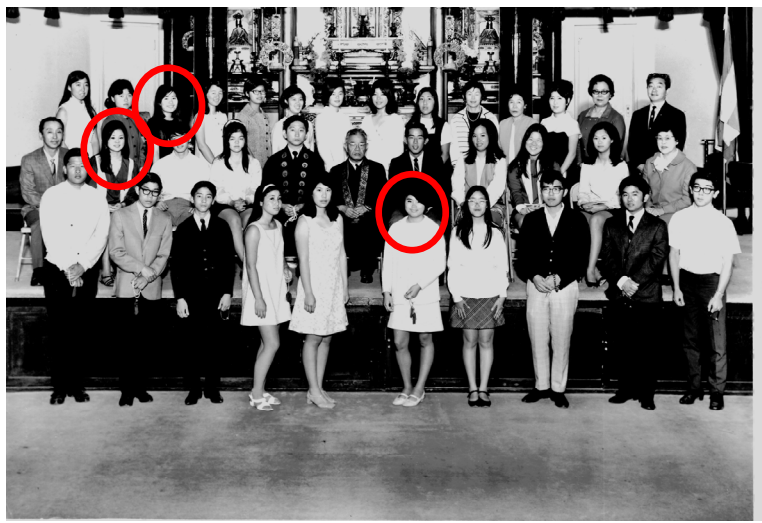
宝探し 午後三時～四時半  
クロージングサービス 午後四時四十五分  
掃除 午後四時～五時

\*\*\*\*\*

Dharma School Parents (通称、DSP) はあまり話題に上りません。しかし、長年に渡ってダルマスクールの保護者達が日曜学校及びダルマスクールの生徒、クラス、イベントを支援していたことは一つ心に留めておいて欲しいと思います。決して常に表立って目立っていた訳ではありませんが、保護者達が支援の為に充てた時間、労力、そして存在感は、ダルマスクールの教師と数々のダルマスクールの活動を支えてきました。支援して下さった全ての両親の皆様に感謝します！

現在のDharma School 父母会組織は、ジュネーブチャオ(2019-2020)が会長です。直近の歴代会長は以下の通りです。たしりりサ(2017-2019)、シンディおだ(2014-2017) テリーいとむら(2012-2013)、スーザンおもかわ(2011-2012)、テレサひらはら(2010-2011)、ロレーン きむら(2009-2010)、ローズかみや(2008-2009)、リックたけとも(2007-2008)、テレサひらはら(2006-2007)、カレンエスカノ(2005-2006)、他多数。

「先月号、同コラムの補足」  
「RYBA(1969年撮影)の写真の判別作業を手伝って下さったジャネットしみずだが、スーザン古戸さいた、エレーンはたけやま 福元に感謝します。左記の方々のお名前が新たに判明しました。



一列目：おおたに シャーレーンの左、たなか げいる  
二列目：杉本氏の右、クリス はたした、ウォーレン なかそね  
三列目：スージー 古戸の左、キャロル いわもと

「父母会」(1969年撮影)  
下記の方々に、図書室への寄贈に感謝致します。サリーよしかわとその御家族、テリーいとむらとその御家族、アート・ヒラハラご夫婦とその御家族、陣川文字。

一列目：左から、鞘野しよういち、不明、ほぎきひさかず、かねこはやお、すぎもとしく、ヘレン高田、おさじまはつみ、増岡隆英輪番、荒谷じろう、乗本恵三開教使、ジョン土網開教使、ミッツさかにわ、男児含め不明、みやもとまさえ、えしたみよ

二列目：アイリーンふじかわ(?), さかもとすなえ、不明、アリスまとは、不明、メイたなか、いわたせつこ、なかのふみこ(?), 原夫人、不明、きしよしこ、不明、不明

三列目：はたけやまけいぞう、ジョージいなどみ、はたけやまいさお、ながのよし(?)、しばたよし、ジェームスみやさき、エイミ宮川、おおしたふじ、不明、さいたとみこ、不明、クララはら、しのはらゆたか、ながたとしえ、メアリーいわもと



(一面続き)すが、現代を生きる私たちに変わらぬメッセージを届けてくれています。それは真の贈り物とは心の込められたものであるということ、そしてその贈り物を通して私たちは人と人との関わりの深さに気づくことができるということなのです。

感謝祭が終わるや否や、クリスマスの飾り付けにクリスマスセールなど、街も、そして私たちの気持ちもホリデーシーズン一色になります。仏教徒の私たちもホリデーシーズンにはたくさんのお贈り物を贈り合うことを楽しみにしています。

日本にも年末にその一年お世話になった人に感謝の気持ちを表す習慣があります。「お歳暮」といわれるものです。感謝の気持ちを表すことで一年を締めくくり、新しい年を迎えるということも美しい伝統です。

お歳暮の心は仏教の「ダーナ」の心と通ずるところがあります。ダーナは日本語で「布施」と訳され、菩薩が寛りを得るための修行である六波羅蜜のひとつです。

お釈迦様の時代、仏法を説く人をそのコミュニティの人々で支えるという伝統がありました。人々は衣食を施し、時には金銭的な援助もしました。師と呼ばれる人々は大変尊敬されていたため、僧侶がお願いせずとも人々は自発的にそのような布施を行なっていたのです。同時にこの布施の行為は大切な修行としても見なされていました。

この布施の精神は現代にも息づいています。そして相手は直接の先生という枠を超えて広がっています。長い時間を経て仏教は、私たちに与えてくださる、私たちの人生に関わっている全ての人たちのことである、ということをお教えてくださっているのです。その意味では、先生やお寺の僧侶をはじめ、家族も、友人も、郵便配達の人、ごみ収集の人、新聞配達の人、少年も全て私たちに与えてくださる先生ということになります。

この一年を通して私や私の生活を支えてくれた人に心からの施しをするとき、同時に私たちに何かが本当に大切なものであるのかに気づく機会を私たちにいただいているとも言えるかもしれません。それは実際には「お返し」だからです。すでにいただいているもの大切さに目覚める時、深い感謝の気持ちが生まれ、それを伝えたいという表現となるからです。仏法や友情、提供されるサービスに対してありがたいと思う時、その感謝の気持ちを伝えるために私たちが贈り物をしたり寄付をしたりという行動をするのでしよう。

私は日本文化や伝統に精通しているわけではないので、お歳暮の起源については詳しく知りません。それが仏教の起源としてあるのか、日本にもともと根付いていた伝統なのかは分かりませんが、もしかしたらその両方が絶妙に結びついた結果かもしれません。

しから真の幸せを感じるということに気がつくのです。新しい年を迎え、今一度過ぎ去った一年を振り返る時、感謝の気持ちを感じるのではないのでしょうか。感謝の気持ちは私たちに自分と自分を支えるあらゆる人と物事との親しい絆を再確認させてくれます。私たちは誰もが賜った命を生かされて生きています、その事実が目覚める時、私たちの日々の生活は感謝に満ち、そのいただいた恩に報いる道となっていくのではないのでしょうか。

最後になりましたが、昨年一年を通してお世話になった皆さまに重ねて御礼申し上げます。昨年一年も別院御門徒の皆さま、同朋の皆さま方にはひとかたならぬご支援を賜りました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。先を見通すことが困難な状況の中で行われた基金集めのイベントは例年以上にみなさまのお力無くしては行なうことが出来ませんでした。ボランティアの皆さまは別院の定めた感染予防のガイドラインを遵守しながら、別院の様々な活動や業務のお手伝いをしてくださいました。寺務所スタッフの藤江理恵さんと香貫田ヴァンスさんのおかげで、別院は必要な業務を滞りなく進めることができました。また多くの困難な決定を行うにあたっては、田端パム理事長、顧問の役員、理事会の皆さまには多大なるご支援とご鞭撻を賜りました。コロナ対策委員の方々は、別院に関わる人々の健康と安全を第一に考え、細心の注意を払いながら別院再開への道筋を開いてくださいました。会計業務に携わってくださった香貫田玲子さん、小田川ダイアンさん、篠原ブルースさん、古沢クリスさんにも御礼申し上げます。また別院の3部門を担当してくださった山田ブルースさんにも感謝申し上げます。寺報の編集は福元イレインさんが担当してくださっています。締め切りを過ぎてからも私から原稿が届かずご迷惑をおかけすることも多くありました。そして日々の清掃を担ってくださっていることに加えて、いつもとっておきのパーベキューレシビを教えてくれる大切な友人ウオレス・ベルナルドさんにも御礼申し上げます。最後に村上響開教使にもこの場をお借りして深く御礼申し上げます。別院も私自身も村上先生が別院に赴任してくださったことをとてもありがたく思っています。お一人で三、四名の開教使分の仕事をこなさなければならぬこともある激務ですが、常に熱意と責任感をもって法務を勤めてくださる姿勢には頭が下がります。

二〇二二年が皆さまやご家族にとって実りの多い年となりますよう心より祈念いたします。本年もよろしくお願い致します。

南無阿弥陀仏



「法味楽」味わう×楽しむ＝仏教



駐在開教使 村上 響

「新年の事始めは如何に」

新年あけましておめでとうございます。さて、年が改まって2022年になりました。しかし、コロナウイルスのパンデミックが余程印象に大きかったでしょう。頭には、「22」という数字を意識しなければ、思わず今年は「2020年です」と言ってしまうそうです。

実はこの「22」という数字、法蔵菩薩の四十八願に照らし合わせてみますと、浄土に生まれた衆生が再びこの世に還ってくるすがたを誓った願になります。これを経典では、お浄土で仏となられた方々が大慈悲の心を起こして、菩薩のすがたとして再び娑婆の世界に還ってきますことから、これは還相と言われます。このお話のみそになるのが、浄土から還ってこられる方々は仏様としてではなく、一修行僧の姿であるという点が大変興味深いのです。仏として完全に悟りきってしまったと完全に解脱してしまうので、そこで娑婆に生きる私たちが接点が無くなってしまおうのですが、これが菩薩であれば願いを達成するまだ途中の姿ですから、私たちが関わることが可能になります。ですから、お浄土に生まれた方々はうちに仏の心を開いたまま、外見ではまだ菩薩として還相されるのだそうです。

新年を迎えるにあたって、私にはある儀式があります。学生時代は寮生活が長かったので、今でも年末が近づくと寮生全員でやっていた年末の大掃除をしなければ、新年を迎えることができません。大掃除の時は自宅の床を箒掛けするのはもちろんですが、コンロの換気口の掃除や壁紙・窓枠を拭いたり、玄関・裏口の扉を雑巾がけをします。掃除は家の部屋に留まらず、家を飛び出して車のシートの座面を専用の掃除機を使って汚れを取り除いたり、普段使っているパーキングのごみ拾いしたりなど、とにかく目が届く所は隅々に至るまで、手入れをしていきます。普段からまめに掃除はやっているのですが、窓枠や自動車のシートからは大量の埃や汚水が取れます。その度に自分がいつも埃まみれの場所で生活をしていることに驚くのですが、同時に自宅や車を形作っている一つ一つのパーツをまじまじと眺めていますと、自分の快適な生活はこれほどしっかり作りこまれた物々のお陰でなっているのか、と感心します。特に今の住まいは、築年数

は百年近くになるそうです。もちろん、内装はリモデルされていますが、古い自宅に直に触れていますと妙に感慨深い気持ちになります。

法然上人は南無阿弥陀仏のお念仏が他の仏道修行に比べて何が優れているのかという点について、阿弥陀様のお名号は家一軒に響えられると仰っています。その他の修行は、この行だと柱、この行だとはりに相当するみたいに、行者は沢山の行を寄せ集めて、それらを全部修めなければ、悟りには到達できませんが、お念仏はそれ一つだけで仏道が満足すると仰っておられます。

私一人の生活を満足させる為に、家や車には数多くの建材やパーツが積み込まれているのに、普段はそれに気づきもしないものか、と大掃除をしながらしみじみと思ひ返しました。それはお念仏についても同じことが言えるでしょう。法然上人が言う所の本来必要な行がすべて含まれた万徳のお念仏であります。それは賢い人も愚かな人も、阿弥陀様が慈悲の心を起こし、全てを摂めと取り捨てない為に必要だったからです。

そう思いますとお浄土からの還相の菩薩が私たちに浄土に誘おうという気持ちで娑婆に戻って来て下さっていることも、気付かずに過ごしてしまっている気がしています。それに気づいたところから、歩みが一歩進むのではないのでしょうか。果遂の誓、まことに由あるかな。ここに久しく願海に入りて、深く仏恩を知れり。合掌

仏教壮年会、リンゴ狩りツアー

コロナ禍でも一家団欒で遊べることをお探してお困りでしょうか?では、リンゴ狩りに行きましょう!九月二十五日、西別院の仏教壮年会でオークグレン保護区のLos Rios Ranch(農園とwinery)農園に訪れました。リンゴ狩りが楽しいのはもちろん、採れたてのリンゴはとっても美味しかったです。一番大きなリンゴを採ったのは、スージーさんとグレンサイタさんです。その重さ5.6ポンドでした。リンゴを採った後はピクニックでランチをして、デザートにはアップルパイアラモードを皆で食べて、リンゴ狩りを締めくくりました。

次回の遠足は、二〇二二年一月にロングビーチの海岸線を歩いて、ピアでランチを食べる予定です。一緒に遠足に行きましょう!お問い合わせは、ロニークオン (tonnyquon@aol.com) か、仏教壮年会のメンバーにまでお尋ねください。

